

複式第1・2学年 国語科学習指導案

I組 1年 男子4名 女子4名
2年 男子4名 女子4名 計16名
指導者 中野 晶仁

- 1 単元 たのしんで よもう (教材「かいがら」1年東京書籍上)
ばめんに気をつけて読もう (教材「お手紙」2年東京書籍上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(第1学年)

この期の子どもたちは、これまで「うたにあわせて あいうえお」で、ひらがなを語のまとまりや言葉の響きなどに注意して音読する能力を身に付けてきている。さらに、もっとたくさんの字が使われている本や文章を読んでみたいという願いをもっている。

そこでここでは、登場人物や話の順序をとらせる能力を高めると共に、本や文章を楽しんだり想像を広げたりしながら音読しようとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元「たのしんで よもう」(教材「かいがら」)を設定した。

この学習は、繰り返しの言葉や文章のリズムを考えながら音読する「おおきな かぶ」の学習へと発展するものである。

(第2学年)

この期の子どもたちは、これまで「音読しよう」で、場面の様子について、人物の様子や会話を中心に動作化や役割読みをし、想像を広げながら読む能力を身に付けている。さらに、自分が読んだ本の感想を相手に分かりやすく伝えたいという願いをもっている。

そこでここでは、登場人物の気持ちや場面の様子について場面を比較することで想像を広げながら読む能力を高めるとともに、物語を読んだ感想を基に友達に本を紹介しようとする態度を身に付けさせたいと考え、「ばめんに気をつけて読もう」(教材「お手紙」)を設定した。

この学習は、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み登場人物の紹介文を書く「本は友達」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「かいがら」は、くまの子が海辺から持ち帰った貝殻を仲良しのうさぎの子に見せ、悩んだ末にその貝殻をうさぎの子にプレゼントする心温まる物語文である。ひらがなの読みの学習を終え、もっとたくさんの字や文を読みたいと思っていたり、入学後徐々に友達関係が広がったりしてきているこの期の子どもたちに適している。また、挿絵やくまの子とうさぎの子の会話文は、気持ちを豊かに表現しているため、想像を広げながら読みやすい教材である。

そこで、本単元では、挿絵を手がかりに読み取ったり、登場人物の行動を中心に様子を豊かに想像したりする力を育成することを目的とする。その際、「音読劇」を言語活動として設定し、くまの子やうさぎの子の様子を想像しながら音読させることが大切である。

具体的には、まず、「かいがら」を読んで、試しの音読劇を行わせる。その際、各グループの発表のよい点・もう少しの点を基に課題を見つけさせ、単元の目標を設定させる。

次に、「かいがら」の全文を読み、話の大体をつかませた後、各場面のくまの子の行動を中

教材「お手紙」は、一度も「手紙」をもらったことのないがまくんに共感したかえるくんが親友のがまくんを喜ばせようとお手紙を書き、二人とも幸せな気持ちになっていく友情を描いた物語文である。この物語は、徐々に友達とのかわりを大切にするようになってきているこの期の子どもたちに適している。また、登場人物が少なく、会話を中心に物語が展開されているため、登場人物の行動や気持ちの変化を中心に話のまとまりをとらえやすい教材である。

そこで、本単元では、物語を構造的に、また想像豊かに読む力を育成することをも目的とする。その際、紙芝居作りを言語活動として設定し、適切な場面分けを考えさせたり、聞き手に伝わるように音読するために内容理解を深めさせたりすることが大切である。

具体的には、まず、「お手紙」を読んで試しの紙芝居を作らせる。その際、互いの作成した紙芝居の相違点を基に課題を見つけさせ、単元の目標を設定させる。

次に、「お手紙」の五つの場面を確かめ、物語の内容の大体をつかませた後、場面ごとに行

心に人物の様子を想像しながら音読させる。その際、「一人で考える，友だちと伝え合う，みんなで課題を解決する」場を設定し，自他の考えを比較させ，多面的に読み取りを深めさせる。

さらに，終末段階では，自分たちで考えた動物たちの会話を追加した「かいがら」の音読劇の発表会を行い，自他の音読の変容に気付かせ，達成感・成就感を味わわせる。

なお，異年齢集団での学びのよさを促進し，上学年下学年のかかわりを深めるために，単元の導入で1年生は2年生に音読劇の発表，2年生は1年生に紙芝居の発表を行うという相手・目的意識をもたせる。そして，終末では，2学年同時に異年齢集団での一斉指導を行う。また，少人数での学びのよさを促進し，同学年のかかわりを深めるために，**展開時の間接指導時にはガイド学習を行い，相手に分かりやすい「伝え方」，相手と自分の考えを比較する「聞き方」，自他の考えの根拠を明確にする「問い返し方」を発揮させ，考えを強固・付加・修正させる。**

(3) 子どもの実態（調査人数及び調査方法 1・2年生 計16名 質問紙法・聞き取り）

本学級の子どもたちが，本単元の学習をどのように受け止め，どのような興味・感心をもっているかを調査した結果は，以下の通りである。なお，（ ）内の数字は人数を示す。

第1学年	第2学年
<p>① 「初発の感想」（複数回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○くまの子はやさしい（5） ○うさぎの子がうれしそうよかった（3） ○二人ともうれしそう（挿絵）よかった（2） ○一番大事なものをあげてくまの子はすごい（2） ○自分も貝殻がほしい。（1） <p>② 「かいがら」の内容理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○優しいお話（3） ○くまが貝殻を拾ってうさぎにあげた話（1） ○うれしいお話（1） ○貝殻のお話（1） ○無回答（2） <p>③ 「音読の技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○すらすら読める（1） ○ゆっくり読める（4） ○拾い読みができる（3） <p>④ 「紹介したい相手」（複数回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お相手さん（6） ○家族（2） ○友だち（4） <p>⑤ 「紹介したい方法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読みきかせ（5） ○音読劇（3） ○感想交流 	<p>① 「初発の感想」（複数回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○がまくんにお手紙が来てよかった（4） ○かえるくんは，やさしい（4） ○二人は仲よしだなあ（2） ○どうしてかたつむりくんに頼んだのか（1） <p>② 「お手紙」の内容理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○落ち込んでいるがまくん→かえるくんが手紙を書いた→手紙が来て幸せになった（5） ○がまくんがしあわせになる話（1） ○がまくんとかえるくんが助け合う話（1） ○手紙の話（1） <p>③ 「お手紙」の構成の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○できている（0） ○できていない（8） <p>④ 「ふたりは・・・」シリーズの読書経験</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ある（8）・・・読みきかせ（8），自分で（3） ○ない（0） <p>④ 「紹介したい相手」（複数回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お相手さん（6） ○家族（4） ○友達（3） <p>⑤ 「紹介したい方法」（複数回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○劇（5） ○紙芝居（4） ○ペープサート（2） ○音読劇（2）

子どもたちの多くは，くまの子やうさぎの子の二人に着目して，「やさしい」「よかった」などの感想をもつことができている。しかし，読み聞かせをした結果の感想であり，自分が読んで感想をもつことまではできない。また，少人数ではあるが，挿絵を基に気持ちを想像しようとする子どももいる。これは，これまでの絵本などの読みきかせの経験が生かされているものと考え。①「かいがら」の内

動や会話から人物の気持ちを読み取らせる。その際、「一人で考える，友だちと伝え合う，みんなで課題を解決する」場を設定し，自他の考えを比較させ，多面的に読み取りを深めさせる。

さらに，終末段階では，難語句の説明や場面ごとの感想を加えた「お手紙」の紙芝居の発表会を行い，自他の内容のとらえの変容に気付かせ，達成感・成就感を味わわせる。

なお，異年齢集団での学びのよさを促進し，上学年下学年のかかわりを深めるために，単元の導入で1年生は2年生に音読劇の発表，2年生は1年生に紙芝居の発表を行うという相手・目的意識をもたせる。そして，終末では，2学年同時に異年齢集団での一斉指導を行う。また，少人数での学びのよさを促進し，同学年のかかわりを深めるために，**展開時の間接指導時にはガイド学習を行い，相手に分かりやすい「伝え方」，相手と自分の考えを比較する「聞き方」，自他の考えの根拠を明確にする「問い返し方」を発揮させ，考えを強固・付加・修正させる。**

(3) 子どもの実態（調査人数及び調査方法 1・2年生 計16名 質問紙法・聞き取り）

本学級の子どもたちが，本単元の学習をどのように受け止め，どのような興味・感心をもっているかを調査した結果は，以下の通りである。なお，（ ）内の数字は人数を示す。

第1学年	第2学年
<p>① 「初発の感想」（複数回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○くまの子はやさしい（5） ○うさぎの子がうれしそうよかった（3） ○二人ともうれしそう（挿絵）よかった（2） ○一番大事なものをあげてくまの子はすごい（2） ○自分も貝殻がほしい。（1） <p>② 「かいがら」の内容理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○優しいお話（3） ○くまが貝殻を拾ってうさぎにあげた話（1） ○うれしいお話（1） ○貝殻のお話（1） ○無回答（2） <p>③ 「音読の技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○すらすら読める（1） ○ゆっくり読める（4） ○拾い読みができる（3） <p>④ 「紹介したい相手」（複数回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お相手さん（6） ○家族（2） ○友だち（4） <p>⑤ 「紹介したい方法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読みきかせ（5） ○音読劇（3） ○感想交流 	<p>① 「初発の感想」（複数回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○がまくんにお手紙が来てよかった（4） ○かえるくんは，やさしい（4） ○二人は仲よしだなあ（2） ○どうしてかたつむりくんに頼んだのか（1） <p>② 「お手紙」の内容理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○落ち込んでいるがまくん→かえるくんが手紙を書いた→手紙が来て幸せになった（5） ○がまくんがしあわせになる話（1） ○がまくんとかえるくんが助け合う話（1） ○手紙の話（1） <p>③ 「お手紙」の構成の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○できている（0） ○できていない（8） <p>④ 「ふたりは・・・」シリーズの読書経験</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ある（8）・・・読みきかせ（8），自分で（3） ○ない（0） <p>④ 「紹介したい相手」（複数回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お相手さん（6） ○家族（4） ○友達（3） <p>⑤ 「紹介したい方法」（複数回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○劇（5） ○紙芝居（4） ○ペープサート（2） ○音読劇（2）

子どもたちの多くは，がまくんとかえるくんの二人に着目し，内容と関連付けた感想をもつことができている。しかし，挿絵や会話を基にした感想をもつことはできていない。①「お手紙」の内容理解については，順序よく伝えられる子どもが多かった。これは，難語句が少なく分かりやすい物語であることによると考える。②場面構成については，理解できていない。これは，「場面」

複
式

容理解については、断片的である子どもが多い。(2)音読の技能については、すらすら読める子どもはいない。これは、ひらがな一文字ずつは学習が進んできているものの、文としてつなげて読む経験が不足しているためであると考えられる。(3)紹介したい相手としては学級内の2年生(お相手さん)が多く、入学してからこれまでの間に上学年のお相手さんがしてくれた「音読劇」や「読みきかせ」に対して、同じ方法でお返しをしたいと考えているためである。(4)(5)

という概念自体が初めてであるためである。(3)「ふたりは・・・」シリーズの読書経験はある。これは、昨年度の2年生が「お手紙」の学習時に、紹介してくれたためである。しかし、その紹介してもらったことから興味をもって自分から読書した子どもは少ない。(4)紹介したい相手としては「お相手さん」と答えた子どもが多く、上学年として1年生に教えてあげたいと考えている子どもが多いことが分かる。紹介方法としては、これまでに経験したものが多く挙げられている。(4)(5)

(4) 指導上の留意点

- ア くまの子やうさぎの子の気持ちを想像させるために、「ああ、ぼくといっしょだ。」「なみのおとがきこえてきそう。」などの会話文一つ一つの話者を明確にさせたり、その続きとしてどのような会話が続くと考えられるか話し合わせたりし、自他の考えを比較させる。
- イ 話の大体をとらえさせるために、読み聞かせをしたり、繰り返し音読させたりするとともに、くまの子の行動を示した挿絵を順番に並べ替える活動を行い、挿絵と本文を関係付けて話の順序を考えさせる。
- ウ 学習に対する達成感・成就感を味わわせるために、単元の導入時に行った「音読劇」と終末時に行った「音読劇」とを比較させ、読みの深まりに気付かせたり、同学年間や異学年間で自他の成長を伝え合わせたりさせる。
- エ 単元の特性や複式学級における「少人数」「異年齢集団」などの特性を生かした指導を行うために、単元の導入と展開においては学年別指導、終末では一斉指導を行う。学年別指導の間接指導時には、ガイド学習を行い、相手の考えの理由を問い返すことで互いの根拠を明確にする話し合いを行わせ、共通点を見いださせる。それらを基に意見を交流させることで、他の考えが強固・付加・修正したことに気付かせる。

- ア がまくんやかえるくんの気持ちを想像させるために、行動や会話・挿絵などを関係付けさせる。また、「ふたりは・・・」シリーズの「お手紙」以外のお話に出てくる二人にも触れさせることで、大まかに二人の関係や人物像をとらえさせる。
- イ 場面構成を的確にとらえさせるために、言語活動として「紙芝居」を設定し、五つの場面につき一枚の紙芝居を作らせる。さらに、紙芝居を読む際には、語のまとまりや言葉の響きを意識させる。
- ウ 学習に対する達成感・成就感を味わわせるために、単元の導入時に作った「紙芝居」と終末時に使用した「紙芝居」とを比較させ、構成のとらえや読みの深まりに気付かせたり、同学年間や異学年間で自他の成長を伝え合わせる。

3 目標

- (1) 音読劇における自分の役について、語のまとまりに気を付けて、楽しく音読しようすることができる。
- (2) くまの子とうさぎの子の気持ちを想像して友達と比較し、多面的に場面の様子を考えることができる。
- (3) 文と挿絵をつないで、場面の様子を想像しながら読むことができる。

- (1) 人物の行動や会話に関心を持ち、作成した紙芝居を分かりやすく読もうとすることができる。
- (2) かえるくんとがまくんの気持ちを想像したことを友達と比較し、多面的に場面の様子を考えることができる。
- (3) 行動や会話から、物語の内容の大体や登場人物の様子や気持ちを、想像を広げながら読むことができる。

- (4) 同学年・異学年の交流を通して、音読劇や紙芝居を相手に分かりやすい言葉で伝えたり、友だちの説明の分からないところを問い返し根拠を比較したりすることができる。

4 指導計画（第1学年8時間，第2学年12時間）

過程	学習課題・主な学習活動（第1学年）	学習課題・主な学習活動（第2学年）
つかむ・みとめ	<p>1 学習意欲の喚起（教材との出会い，試行，課題解決の見通し）《診断的な振り返り》</p> <p>「かいがら」の試しの音読劇</p> <p>どんな気持ちか考えて読むと，もっといい音読をすることができそうだな。</p> <p>自分で考えた会話の続き入れた音読劇を，2年生（お相手さん）に聞いてほしいな。</p> <p>「かいがら」を，つづきのおはなしもかんがえて，2ねんせいにはっぴょうしよう。</p>	<p>1 学習意欲の喚起（教材との出会い，試行，課題解決の見通し）《診断的な振り返り》</p> <p>「お手紙」の試しの紙芝居作り</p> <p>お話をいくつに分けてるか考えないと，紙芝居の枚数を決められないなあ。</p> <p>1年生にも分かるように，説明を加えたり感想を入れたりした紙芝居を読みたいな。</p> <p>「お手紙」の紙芝居を作って，1年生に分かりやすくはっぴょうしよう。</p>
しらべる・ふかめる	<p>2～5 限定された範囲での試行錯誤（本時4／8）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材文を読んで，話の大体をつかむ <ul style="list-style-type: none"> →・登場人物 ・話の順序 ○ 場面ごとの読み取り <ul style="list-style-type: none"> →・くまの子の行動と気持ち ・うさぎの子の気持ち ・音読の工夫 ○ くまの子やうさぎの子に伝えたいことの発表 →・手紙形式で記述 <p>6～7 広い範囲での試行錯誤，試行の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループごとに各自の役を決定 ○ 読み方の工夫《形成的な振り返り》 	<p>2～8 限定された範囲での試行錯誤（本時6／12）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 物語の内容の大体をつかむ <ul style="list-style-type: none"> →・登場人物 ・話の順序 ・五つの場面の確認 ・紙芝居作成 ○ 場面ごとの読み取り <ul style="list-style-type: none"> →・がまくんの行動と気持ち ・かえるくんの行動と気持ち ・紙芝居に説明・感想の追加 <p>9～11 広い範囲での試行錯誤，試行の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループごとに各自の役を決定 ○ 読み方の工夫《形成的な振り返り》 <p>「ふたりは……」シリーズの並行読書</p>
ふりかえる・いかす	<p>8（1年生），12（2年生） 活用場面の想起（合同発表会）《総括的な振り返り》</p> <p>グループごとに読み方が違っていてもおもしろいね。これからも，音読を工夫しよう。</p> <p>2年生の紙芝居は，難しい言葉についても説明してくれて，分かりやすかったよ。</p> <p>1年生の音読劇は，すらすら楽しそうに読むことができていたよ。</p> <p>元気がなくて読んでいて，がまくんの悲しい気持ちが伝わったよ。これからも，気持ちを考えて読みたい。</p>	

5 本 時（第1学年：4／8，第2学年：6／12）

(1) 目 標

くまの子とうさぎの子の会話や行動を基に，二人ともにここに顔になっている理由を考えることができる。

がまくんとかえるくんの会話や行動を基に，がまくんが怒ったような口調で話している理由を考えることができる。

(2) 指導に当たって

一番大切な物をあげた理由をとらえさせるために，「だからあげるんだ。」「ほんとうにありがとう。」などの会話の続きを挿絵と関係付けさせながらうさぎの子の立場やくまの子の立場で考え，想像した気持ちを友だち同士で比較させ，共通点・相違点を話し合わせる。

がまくんが怒ったように話す理由をとらえさせるために，手紙がほしいがまくんの気持ちとくり返し手紙を待つことを勧めるかえるくんの気持ちとを比較させ，「手紙が来てほしい」という思いは共通するが，互いの会話がかみ合っていないことに気付かせる。

学年別指導の中で，ガイドの司会による話し合いを中心とした学習を行う。その際，小黒板にまとめる視点を明確にし，互いの説明の分からないことに対して「なぜ」と問い返させることで，話し合いを深めさせる。また，終末段階では，共通点を見いだす際の仲間分けの場面の話し合いの深まりを称賛し，相互に交流したことで自分の考えを「強固・付加・修正」したことに気付かせたい。

